第 2 章

海の記憶

この章では、「魚湧く海」「汚染されていく海」「埋められていく海」の三つの時期に分けて、13 の記憶を集めました。
記憶をたどる写真はほとんどありません。あなたの心の中に、風景を思い描いてみてください。

魚湧く海
汚染されていく海
埋められていく海

魚湧く海

水俣湾は波が立たないし、
砂浜もあるし、藻場もあるし、
魚が産まれる条件がそろうとった。

魚は大きくなっても、そのまま湾におった。
だから、一年中いつ漁に行っても魚が獲れる。

わたしたち漁師は「魚が湧く」と言いよったです。
昔から、ほんと自然豊かな漁場だったよ。

杉本雄さん　1939 年生まれ

海の記憶
2
魚湧く海

アワビがざわめく海

大潮の夜になると
何かザワザワと音が聞こえるんだって。

何だろうと思ったら、
明神さんのところから、
アワビが恋路島に向かって
泳いでいってる音だったって。

大潮の時には、
恋路島とくっつきそうなくらい潮が引いてたからね。
恋路島には今でもアワビがたくさんいるらしいから、
それはおとぎ話じゃなく、
ほんとにそれくらいいたんだと思う。

吉永理巳子さん　1951 年生まれ

海の記憶
3
魚湧く海

毎日潜った海

小学 6 年生の頃、毎日潜って、魚獲りに行きよった。
魚が一番のごちそうやったから。

昔は、海藻がすごくたくさん生えていて、魚が豊富におった。
魚が並んで泳ぎよった。
人間が魚に食われるんじゃないかと思うくらい、魚がおった。

岩かげにいる魚を 1 匹狙ってモリで突くと、
2、3 匹が串になって刺さってきよった。
それくらい魚がおった。

ほんと、魚の宝庫だった。
すごかったもんなあ。

寒川康隆さん　1939 年生まれ

海の記憶
4
魚湧く海

家族で親しんだ海

私は昭和 25 年に、
山の方の集落から明神に嫁に来ました。

ここら一帯、きれいな海だったんですよ。
主人は、よく魚釣りに行きよったんです。
藻についとる小さかエビを網ですくって、エサにしてました。
魚は、キスゴとかエソとか獲れよったです。

春には、潮が引けば、
ヒトクチダコっていう小さかタコが獲れよりました。
足首がつかるくらいの浅瀬を歩きながら探すんです。
タコの逃げる方向を見て、主人は手でつかまえてました。
私は獲りきらんので、籠を持ってついて歩きよったです。

子どもも一緒に、カキやテングサを、よく採りよりました。

金子スミ子さん　1931 年生まれ

海の記憶
5
魚湧く海

海辺の井川

昔ここが海だった頃、
岩の間から真水が自然に湧いているところがありました。

明神にまだ水道が通ってなかった頃、水は貴重でした。
井戸の水が少ない時は、
海辺の井川の水をもらったりしてました。

井川の水は、山からの栄養をたっぷり含んでいたので、
海の生きものも育んでいたのです。

けれど、私が小学校 3 年生頃に工事が始まって、
井川は、チッソのカーバイドのかすで埋められてしまいました。

吉永理巳子さん　1951 年生まれ

汚染（おせん）されていく海

1948 年にアメリカ軍が撮影（さつえい）した水俣湾（わん）。チッソ工場の排水（はいすい）で海が白く濁（にご）っているのが分かる。

海の記憶 6 汚染されていく海

ヘドロに浸かって働く

百間の海の近くに、チップ工場があったったい。
紙ば作る原料たいね。
私はそこで 15 年間働いとった。

チップば作るとに、長か原木ば半分に切って、
大きか機械に入れて、ゴロゴロ回して洗うとたい。

原木を洗う水は、チッソ工場脇の排水溝から
ポンプでくみ上げよった。
チッソのドボドボした廃水で、原木ば洗いよったったいなあ。

ポンプが詰まった時は、
ドベ（ヘドロ）の溜まったチッソの排水溝に下りて掃除しよった。
深かところは腰までドベが積もっとった。

15 年間水銀の廃水に浸かって仕事しよったわけよね。
今考えてみれば、ゾッとすっとたい。

1933 年生まれの女性

海の記憶 7 汚染されていく海

海に落ちた子ども

百間の海岸のところには、
きれいな丸太杉が山積みにしてあったんです。
そしてそれを、毎日どんどん船積みしてたの。

大きな原木が山積みしてあるから、
子どもたちはそれに登って遊んでたんですわ。

大人たちが、
「そこに登ると危ないよ。海に落ちるよ」と言ってたんだけど、
子供たちは楽しいからそれに登って遊ぶんですよ。

そしたら案の定、丸太が転がって、
子どもが一人、海に沈んだんです。

普通の海岸ならぷかっと浮かんでくるけど、ヘドロですがね。
大変でした。子どもは助からんかった。

田尻幸子さん　1931 年生まれ

海の記憶
8
汚染されていく海

ヘドロに浸かった船

中学生の頃、図工の授業で、
百間港にスケッチに来ていました。

潮が引いていて、ヘドロの中に浸かっている船が
たくさんあったのを覚えています。

百間の港に漁船を持って来ると、
船の底に付くカキなどの貝が死んでしまうので、
船を掃除する手間が省けたそうです。

今にして思えば、
水銀の毒で船底をきれいにしていたわけです。

川本愛一郎さん　1958 年生まれ

海の記憶
9
汚染されていく海

ヘドロの海で泳ぐ

小・中学生の頃、水俣湾で泳いだことがあります。
汚染を調べるために、水俣湾の魚を獲っていた頃です。

百間排水口の辺りでは、
船が、積もったヘドロに乗り上げるので、竿で押すんです。
でも、その竿が全部、何メートルもズブズブ入っていくんです。

船が動かないから、立ち泳ぎで引っ張りました。
臭いもすごかったし、水が濁っていて、
何も見えませんでした。

杉本肇さん　1961 年生まれ

埋(う)められていく海

水俣湾(わん)の埋(う)め立て工事は、1977 年に始まった。海を囲った内側に、浚渫(しゅんせつ)した水銀ヘドロや汚染魚(おせんぎょ)を埋め立てていった。

海の記憶
10
埋められていく海

地層のようだったヘドロ

いよいよ明日からヘドロ工事が始まるという前の日に、
あのヘドロの 4 メートルくらい下は、
どうなっているんだろうと思ったんです。

今日が最後だからちょっと見てみようと、
百間排水口のところを、20 人ほどで、
潮が引いた時にどんどん掘っていったんです。

掘っていると水が入ってくる。
それを汲み上げて掘りました。
深さは、人間の身長くらい掘るのがやっとでした。

そうしたら、7 つくらいの層にはっきりと分かれてた。
緑の層とか白の層とか、赤い層とか赤茶けた硬い層とか、
黒い層、薄いピンク色の層もありました。
とても硬くてカチンカチンしているところもありました。

その時のヘドロは甕に入れて、トラックで持ち帰りました。

柳田耕一さん　1950 年生まれ

海の記憶
11
埋められていく海

汚染魚を獲る

埋め立て工事の時、漁師は順番に、
汚染魚を獲りに行かんばんかった。

命令だった。
3 回欠席したら、漁師を辞めんばんかった。

わたしは仕方なく行ったばってん、
うちの家内は
「魚どんが、あまりにもかわいそうだ」と言って、
絶対行かんかった。

杉本雄さん　1939 年生まれ

海の記憶
12
埋められていく海

いのちのたくましさ

水銀調査のための魚を獲りに
水俣湾の仕切り網のところに行くと、
たくさん獲れたんです。

汚染された海にたくさん魚がいるって、不思議ですよね。
汚染魚を一掃するため、あんなに獲ってたのに、
それでもまだたくさんいた。
ほんと、魚が湧くような、豊かな海でした。

仕切り網と言っても、
船が通れるように真ん中は 50 メートルくらい開いてたし、
小魚は網の目を行き来してました。

今思えば、仕切り網は
ひとつの巨大な漁礁になってたんじゃないかなあ。
網に藻や海藻がついて、
それに小魚、大きなタチウオやチヌも群れてたんですよね。

魚たちはたくましいですよ。
自然の復元力っていうか、人間の及ぶところではないですよね。

中村雄幸さん　1950 年生まれ

海の記憶
13
埋められていく海

魚を埋める

獲った汚染魚は、最初はドラム缶に入れよった。

でも小さくて間に合わんけん、
2トンくらい入る大きなタンクを作って、
魚を入れて、コンクリートでふたをした。

そしてタンクを並べて埋め立てたったいなあ。
タンクがいっぱいになるまでは、
ふたは開けっぱなしやけん、
魚の腐った臭いがひどかった。

杉本雄さん　1939 年生まれ